

第34回 SRお客様交流会

2024年6月12日(水) 大田区産業プラザPiO

藁にもすがる思いのSR導入で得た 一大社内プロジェクトの大成果!

関東日本フード株式会社様

- 所在地: 東京都品川区大崎二丁目1番1号 ThinkPark Tower
関東・新潟・北陸に全38拠点
- 創立日: 1979年2月
- 代表者: 代表取締役社長 前田 和幸
- 事業内容: ニッポンハムグループが国内外で生産・輸入・加工する食肉製品を(全国ネットの)量販店・食肉店・外食産業への販売

SR導入 SRConnect 532台(全車両)
※ 2024年7月現在



安全管理室 室長
須山 浩治 様



これが我が社のSR導入効果

事故件数が過去5年間で最小化
平均SR得点92点、バック時安全確認度が約60%UP

事故違反数が年間109件大発生! “藁にもすがる思い”でSR導入を開始

2022年度は、事故違反件数が109件/年と文字どおり「最悪」でした。現場で事故や違反が発生すると「責任者→私→社長」の順に昼夜休日を問わず、連絡を取り合うため当時は「3日に1回」のペースで社長に報告する状態でした。いろいろな対策を取りましたが、全く効果が出ないため「藁にもすがる思い」でデータ・テックに駆け込みました。

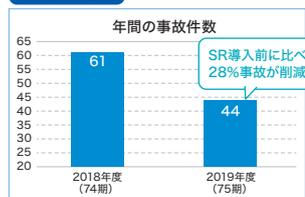
安全管理室の取り組みのひとつに「配送車両の安全管理」があり、事故撲滅のため2018年にSRを全車両に導入。同年6月の館林営業所に始まり、翌年8月まで関東・新潟・北陸の全38カ所を訪問し、運用方法の説明や意見交換を行いました。

SR導入1年目は、導入前と比べ28%の事故削減となりましたが、4年目(2022年)では右肩上がりの業績とは裏腹に事故と違反が急増(グラフ1、2)。そこで2023年4月に「事故違反ZEROプロジェクト」を発足しました(表)。そこで、現状打破の対策をデータ・テックと何度も話し合い、SRの運転診断点数90点、バック時の安全確認度75%に目標設定しました。

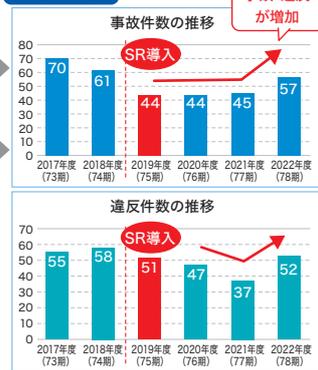
事故違反ZEROプロジェクト発足、だが 情報共有・共感不足で結果が出なかった

プロジェクト発足1か月後に事故が5件から6件に増え、バック時の安全確認度も下がり、25%未満の営業部で事故が発生していました(グラフ3)。原因を調べると、幹部会議の報告・指示内容が、現場営業部の新入社員、パート配送までの全従業員

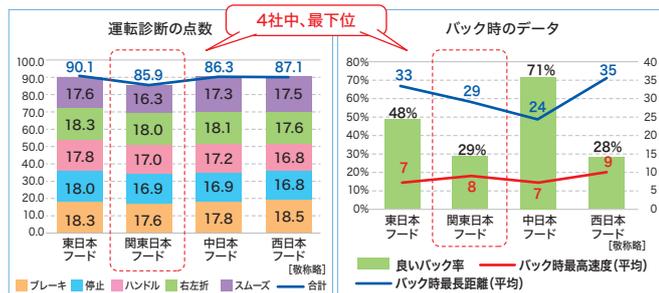
SR導入1年目



SR導入4年目



グラフ1 SR導入1年目は、導入前と比べ28%事故が削減(上)。4年目になり、現場の気のゆるみやマンネリ化が原因なのか、事故だけではなく違反が急増する結果となった(右上、右下)



グラフ2 2023年1月の関東日本フードは、グループ4社内で最下位で、バック時の安全確認もほとんどできていなかった

① SR運転診断結果で自分の運転振り返りを習慣化

→ 帰庫後、自分の点数を一覧表に手書き記入

② バック3秒ルールの徹底・強化!

→ SRのバック帳票で3秒ルール実施状況を確認

③ 車両死角などの確認のための実車講習会

→ 目視とバックモニタによる死角の勉強会(年2回実施)

④ 地元警察署による安全運転講話

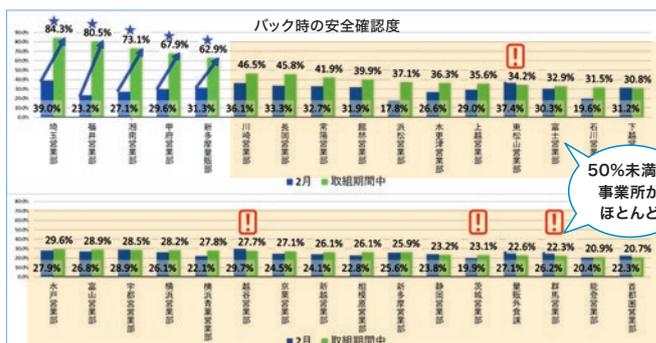
→ 地元警察署による安全運転セミナー(年1回実施)

⑤ SRで取得された危険映像によるKYT*

→ レッド判定のヒヤリハット映像で社内トレーニング

表 事故違反ZEROプロジェクト発足時の5つの取り組み

※ 危険予知トレーニング



50%未満の営業所がほとんど

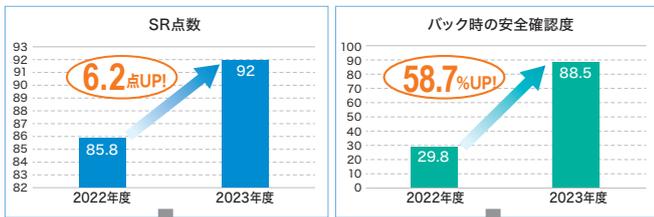
グラフ3 SRでほとんどの営業所でバック時の安全確認率が低いことが判明。50%未満の営業部は、いつ事故が起きてもおかしくないという

員に浸透されていませんでした。そこで落とし込み徹底のため、①～⑤のより具体的な施策を再考しました(表)。

ドライバー同士が相互に安全運転へ意識と影響し合う好循環を創り出す

各施策の結果、SR得点とともにバック時の安全確認度が大幅に向上しました(グラフ4)。この流れを継続するため、追加の取り組みとして「⑥安定度の強化」を実施し、その結果、安定度が9.1%にUPしました。さらに「⑦運転結果のランキング化」を行い、約500名の運転診断結果を一覧化。

データ・テックに運転診断項目での改善点を指導してもらうことで、SR診断項目やバック挙動について社員同士で得点向上への情報交換や切磋琢磨、本質的な安全への意識付けができました。



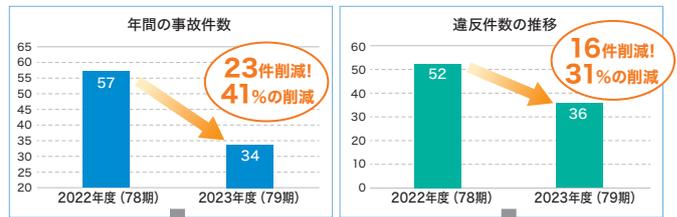
ウィークポイントのバック時の安全確認度の課題を克服!

グラフ4 SR得点は29営業部が90点以上を達成。バック時の安全確認度は17営業部が90%以上、15営業部が80%以上を達成(全38営業部中)

売上げや利益など数値にこだわる会社は安全運転教育もSRの数値にこだわる!

これらの取り組みで2023年度には前年度比較で年間事故件数が41%、違反件数が31%の削減を実現。任意保険費も約2,000万円の減額となりました(グラフ5)。燃費改善によるCO₂削減をグラフ分析すると相関関係はないが、燃費増減にムラがあり、燃費改善の余地があると感じています。

SR導入で安全運転の目標を数値化し、現場で競い合うことで安全意識が飛躍的に向上しました。これは何より社員の努力のたまものです。今では営業部を巡回すると「点数、見てください!」と声をかけてくれ、SR導入の成功を肌で感じています。最終目標値は事故・違反0であり、社員が悲しむことがないように、今後も安全運転に積極的に取り組みます。



事故・違反件数が過去5年で最小化、保険金2,000万円も減額

グラフ5 2022年度比較で事故件数で23件の削減、違反件数で16件の削減を実現という効果が得られ、事故・違反件数が過去5年で最少となった

『改善基準の達人IIクラウド』など注目のデータ・テック製品を紹介

● SaftyRecがiPhone 14~12、SE3に対応

iPhoneで簡易ドライブ診断が可能なアプリ『SaftyRec』がiPhone 14~12、SE3に対応して再リリース。iPhoneのIN/OUTカメラで運転映像を記録し、その日の走行記録をドライブ診断履歴や走行履歴マップから振り返れる。SaftyRecの初月使用料の無料サービスを実施中(図1)。



図1 対応機種: iPhone14~12、iPhoneSE3、iOS16以上、月額使用料: 150円(初月使用料、ダウンロード料は無料)

● 改善基準告示改正に対応する時間管理ソフト

今年4月よりドライバーの改善基準告示が改正し、拘束時間が3,300時間以内/年、284時間以内/月に変更。「拘束時間を減らし、休息期間を増やす」が、運送会社に求められている。時間管理ソフト『改善基準の達人IIクラウド』は、専用サーバのSRによる運行・作業記録を元にして、運転・作業記録や日報出力ができ、改善基準告示が遵守されているかを確認可能となる。新たにダッシュボード画面に「出退勤ボタン」機能を追加し、より実態に沿った拘束時間を把握できる(図2)。



図2 新機能のダッシュボードに追加された「出退勤ボタン」(サンプル画面)

● 増加するフォーク事故に歯止めをかける!

フォークリフトの事故は、2005年から全体的に下げ止まりだったが、2022年から、はさまれ・巻き込まれや転倒、激突事故が増加^{*}。安全確認と事故予防の徹底が求められ、役立つのが、フォークリフト用SR『SR ForkLift N』。

フォーク運転診断や帳票作成、時間管理など5大機能を搭載(図3)。加速度計やジャイロセンサーでフォークの挙動を記録し、スイッチバックを含む5項目で運転診断を実施。その他、フォーク操作の記録映像によるKYTや注意書によって、実践的でわかりやすい指導や、安全運転教育に活用できる。



SR ForkLift N
セイフティレコーダフォークリフト エス



加速度計で加減速、旋回時のGを検知

ジャイロセンサーで低速旋回の挙動を分析

図3 SR ForkLift Nの5大機能(上)と、セイフティレコーダの原理(下)。映像で荷物の取り扱いや、安全確認行動、ツメ操作などを確認できる

^{*} 厚生労働省災害統計データ

改善基準の達人IIクラウドで労務時間管理 2024年問題解決の先手を打つ!!

望月運送株式会社 様

- 所在地：栃木県足利市堀込町2103-6
- 創業：1980年2月
- 代表者：代表 望月昭夫
- 事業内容：一般貨物自動車運送事業、軽貨物運送事業
本社（栃木・足利市）、埼玉営業所（埼玉・幸手市）に2拠点

SR導入 SR DLite 約58台（全車導入）
改善基準の達人IIクラウド ※ 2024年7月現在



望月 理人 様



事故0と業界平均以上の燃費を達成
労務時間見える化で業務改善も実現

待機や荷待、荷役の時間を完全見える化 業務改善や荷主交渉がデータを元に可能

2006年にSR全車導入を皮切りに、現在は『SRDLite』に全車切り替え、労務管理ソフト『改善基準の達人IIクラウド』を運用しています。当社は、安全運転に対する4つの取り組みを実施（図1）。SR活用と取り組みで「①過去6年の重大事故件数が0件」「②SR得点による安全運転教育でドライバーの安全運転意識を強化」「③業界平均以上の燃費を実現」という成果を得られました（図2）。

ところがここ数年、会社規模の拡大による車両保有台数とドライバー増によって、一人ひとりの労働時間の把握が困難になり、「待機時間」「休憩時間」「荷役時間」の実態把握や管



図1 SR導入とともに安全運転に対する4つの取り組みを継続実施



図2 SR導入で得られた3つの効果。燃費に関しては、大型車3.4km/ℓ、中型車5.9km/ℓ、小型車9.6km/ℓを実現し、一定以上の成果が得られた

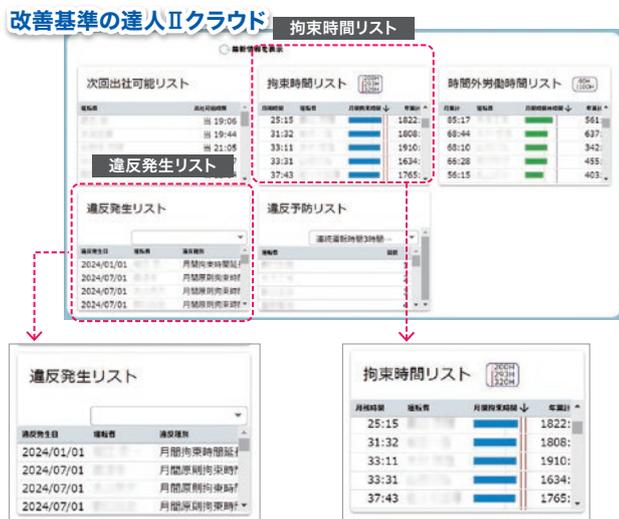


図3 改善基準の達人IIクラウドのダッシュボード画面(上)。拘束時間リスト(左下)と違反発生リスト(右下)を活用し、赤色の目安ラインから飛び出した部分をチェックするだけでOK。確認作業にかけていた時間を大幅削減できた

理がうまくできませんでした。2021年に改善基準の達人の運用開始。ドライバーの労務内容が数値データとして見える化され、特にダッシュボード機能で「拘束時間」「違反発生リスト」が一目瞭然に確認でき、ドライバーへのヒアリングとデータの2つで最終の判断や解決策が図れます（図3）。改善基準の達人で労務時間の見える化と業務内容の見直しで荷積の待機時間がなくなり、労働時間の大幅削減が実現（図4）。長距離運行時の高速道路渋滞による労務時間超過や、休憩時間の不足などの問題も解消できました（図5）。現在、データを元にルートごとの担当者や休日出勤の担当者を定期的に交換することで、属人化の解消と労働時間の均等化や、完全週休二日制度の実現にも挑戦中です。今後も、改善基準告示を遵守できる就労体制の構築や、DXによる配送業務の効率化をめざしていきたいです。

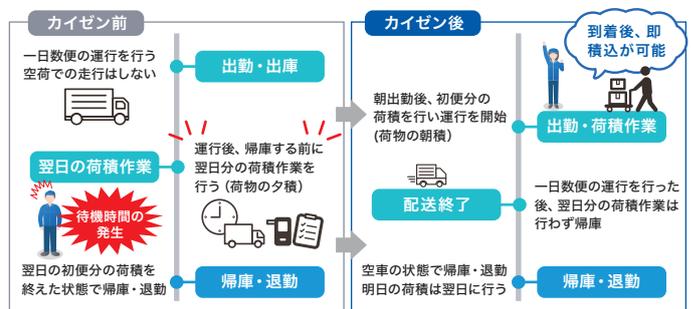


図4 従来は、一日の最終便終了後、翌日分の荷積み作業「夕積み」をして、積載物の検品や到着遅延で待機時間が発生。待機時間＝コストをデータで把握することで荷主への交渉材料を獲得。荷主側への「朝積み」の変更提案に成功した

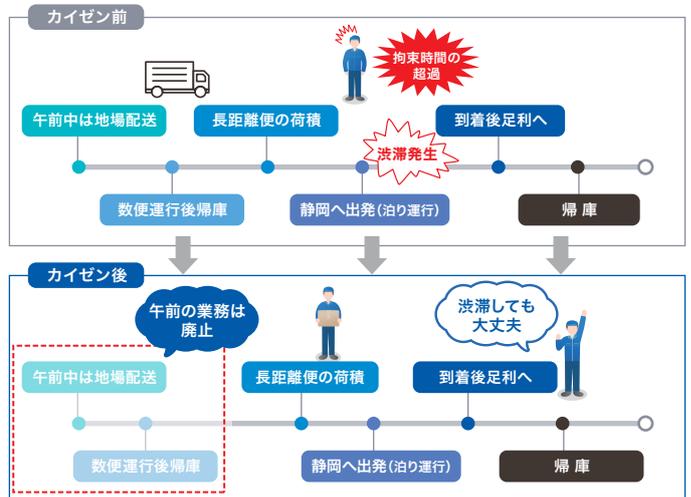


図5 長距離運行は、午後出発だったため、午前中の地場配送後、荷積作業を行い出発していた。高速道路渋滞などで休憩が取れなくなり、法定拘束時間超過になりがちに(上)。午前中の配送を廃止し、午後の積荷から勤務を開始させることで、道中の交通状況に柔軟に対応できる体制が取れた(下)



SRで広がるお客様の輪

分科会では、SRユーザー様と今後SR導入を検討されるお客様が、実践的でホットな意見交換を行いました。SRの活用方法や、改善基準告示、ドライバー労務管理、フォークリフトの安全管理といった、物流・運送業界の4大トピックでグループ分けしました。



【グループ1】SRの活用方法

- ・バック時は、バックモニターやミラー、指差確認に加えて3秒ルール（車両の完全停止）を徹底させる。その際、SRのバック診断データを元に具体的な指導を行う
- ・SR得点が伸び悩むドライバーには、食事券や金券などの報奨制度が有効。原資はかかるが、事故削減や燃費向上による安全効果と換算すると、十分な費用対効果が見込める
- ・個人評価だけではなく、事業所や部署、チーム単位のグループ評価も忘れずに行う
- ・事故や違反頻発者は同乗走行による集中教習を実施。教習所で習う基本運転技術や運転マナーなどのおさらいが必要

【グループ2】改善基準告示と時間管理

- ・改善基準告示は知っているが、実態把握や深い理解が不十分。協力会社への周知も不足気味だと思う
- ・今年4月の改正でドライバー拘束時間の制限が、業務に大きな影響を及ぼしている（配送コースの見直しなど）
- ・拘束時間の原因は「荷待ち」であり、2～3時間はざらで共配時の仕分けに起因。2時間以上の待機は、費用を請求すべき。または時間分散で改善を図る（夕積み→朝積みへ変更）
- ・荷待ち改善の交渉材料に配車管理システム・パス予約システムのデータを積極活用。実態とのずれをエビデンスとする
- ・交渉は納品先ではなく、荷主や上流のメーカーへ行う方法もあり
- ・人材不足が要因なので、ドライバー人材を増やす努力を行う（高待遇を自社サイトで訴求、大卒採用のため長期研修制度を新設など）



【グループ3】人手不足によるドライバー採用

- ・自社サイトやリクルートサイトの充実。SNS（YouTubeやInstagram）で情報発信を行う。スマホ対応や、女性向けページを活用
- ・評価制度の指標を明確化し、キャリアUPマップを作成
- ・若手や新人は、免許取得サポートや各種研修制度を採用
- ・カフェや食堂、遊戯施設など福利厚生を充実させる
- ・現場の女性採用を積極化。社内の雰囲気向上の一助にもなった

【グループ4】フォークリフトの安全管理

- ・スピードを出させない!! エレベータ前では必ず一時停止をルール化
- ・重量を考えた荷積を行う。指差呼称の徹底化
- ・事故が発生したらトップや社内の情報共有を迅速に行う。事故事例をデータベース化し、KYTなどに活用
- ・荷役の際は手前側に倒して運ぶ。爪を挿す位置にマークを入れる
- ・積荷が滑りやすい場合、爪にラップバンドを巻いたり、爪上にゴムバンドを置くなどの工夫で防止を図る
- ・プラットフォームへの輪止めの設置。境目に色やマーカー、段差をつけてオペレーターや周囲が気づくようにする
- ・時間内に収めてくれない荷主とは契約しない（作業時間を区切る）
- ・トラックドライバーからのクレームは管理者と共有
- ・「バラではなくパレットで!」と依頼する
- ・荷役作業が遅れる場合は、倉庫やセンターへ必ず連絡する



第35回 SRお客様交流会

2024年 11月12日（火） 東京・大田区産業プラザPiO

WEBセミナー&展示会

WEBセミナー毎月開催! 展示会出展情報を随時公開

第14回 SRグランプリ エントリー募集中!

応募の詳細は、弊社ホームページにアクセスください!!

その他、イベント、セミナーの詳細は、弊社ホームページにアクセス!!



◀ Webへ

株式会社 **データ・テック**

〒144-0051 東京都大田区西蒲田7-37-10 グリーンプレイス蒲田11階
TEL.03-5703-7060 FAX.03-5703-7063
<https://www.datatec.co.jp>

2024©株式会社データ・テック
SRNEWS_VOL.78 2409C10-(0)